

県民のあゆみ

2025
7
令和7年7月号



山形県広報誌
令和7年7月号
県民のあゆみ
No.646

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報広聴推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子
県ホームページURL https://www.pref.yamagata.jp/

- 特集1 2025年、やまがたフルーツ150周年 P.02
- 特集2 やまがたの山を楽しみ、守り受け継ごう! P.04
- 特集3 土砂災害に対する防災意識を高めましょう P.05
- 奏であう人 P.08 / 潜入レポート! P.16

やまがたフルーツ150周年の取組みの一環として「やまがたフルーツEXPO」のフルーツデザイン展を企画する東北芸術工科大学の学生の皆さん。
(撮影協力:土田真澄さんのさくらんぼ園地)



どうなってるの!?

やまがたけんりつしんじょうびょういん 山形県立新庄病院

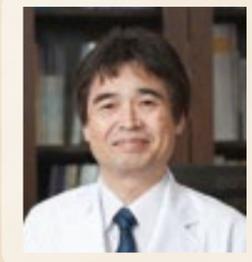
れいわ なん たら
令和5年に新しくなった新庄病院。
もがみちいき やくわり にな
最上地域でどんな役割を担っているの?

より高度な医療体制を整え、地域の皆さんに安心できる暮らしを提供しています。

令和5年10月に新しくなった県立新庄病院は、患者さんを早く運ぶためのヘリポートを備えた「地域救命救急センター」を設置しました。また、最上地域で唯一分娩(出産)を扱い、小さな赤ちゃんとお母さんを一緒に支える病院として、地域のひとたちに安心してもらえる医療サービスを提供しています。

また、建物のいたるところに県産の木材を使い、利用する人が木のぬくもりを感じられるようになっています。

この病院は、災害時に医療の中心となる病院にも指定されているため、地震の揺れを建物に伝えにくくする免震装置が地下に設置されています。これにより、大きな地震にも耐えられる構造になっています。また、大雨で洪水が起こったときに水が入ってこないよう、病院の敷地全体を2メートル高くして、災害時でも安心して医療が受けられるようにしています。



山形県立新庄病院
はちのへしげみ いちろう
八戸 茂美 院長
新しい新庄病院では、地域救命救急センターや総合患者サポートセンターを設置したほか、さまざまな病気にしっかり対応できるよう、最新鋭のCTやMRIなどの医療機器も導入しています。これからも地域の皆さまに「安心・安全・信頼」の医療を提供していきます。



がん患者さんのための抗がん剤は、薬剤師が「安全キャビネット」という装置を使って、不純物が混ざらないように無菌的に作っています。



図書室では医療や健康の図書のほか、新書や雑誌、マンガなどもあります。隣にカフェもあり、付き添いの方や患者さんの気分転換にも喜ばれています。



外来や入院の患者さんが迷わないためにも、大きく見やすい看板で診察室や処置室の場所をお知らせ。デザイン性とアクセスの良さが評判です。



免震装置は巨大な地下空間に設置。地震のあとにも医療を続けられるように免震装置が建物の揺れを軽減します。



このQRコードを
スマートフォンで
読み取ると
デジタル版の
記事が読めます。